

経営方針と対処すべき課題（有価証券報告書より）

1 目指す姿と数値目標

ミッション

軌道上サービスを通じて宇宙機の安全な航行を確保し、宇宙空間の持続的な利用を実現すること

ミッション完了目標
4軌道上サービス

軌道上サービス確立目
2030年

従業員構成
35カ国以上

2 中長期の経営戦略

1. グローバル拠点展開

日本・英国・米国・フランスの主要地域に拠点を構え、各地域で研究開発チームを組成し受注を積み重ねる

2. コアRPO技術活用

世界初のデブリ除去実証衛星ELSA-dによる宇宙実証、デブリ観測衛星ADRAS-Jの成功により競争優位を確保

3. 複数ミッション同時推進

2025年4月期以降、複数地域でISSA・LEX・ADR・EOLサービスを同時展開し、パイプライン分散とリスク低減を実現

4. 防衛関連需要開拓

日本・英国・米国で防衛関連ミッション契約を受注し、成長ドライバーとして政府機関との協議継続

3 対処すべき課題

① キャッシュ・フロー黒字化

- ・営業活動キャッシュフローが赤字の状況を改善し、フリー・キャッシュ・フロー黒字化を実現
- ・売上総利益・営業利益の黒字化に向けた事業推進
- ・売上債権・仕入債務回転期間の最適化による資金効率化

② 市場創造と技術成熟化

- ・未成熟な軌道上サービス市場において、4つのサービスの事業化を2028年4月期までに証明
- ・複数ミッション同時実施による技術革新・成熟化の加速とコスト削減
- ・2030年までに軌道上サービスをあたりまえと認識させる市場構築

③ 資本コスト低減とリスク管理

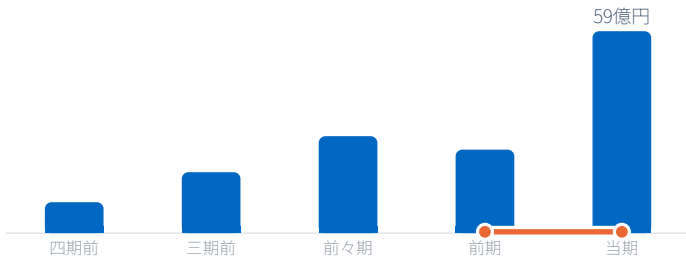
- ・複数サービス・複数地域展開による事業全体の不確実性低減（現在9件の顧客ミッション）
- ・負債と資本の最適構成検討と財務安定性確保
- ・ESGを意識した経営（従業員35カ国以上、女性比率28%、エンジニア比率73%）

面接で使えるポイント

- ・軌道上サービス市場において世界に先駆けて受注を積み重ね、ELSA-dによる世界初の宇宙実証に成功している
- ・日本・英国・米国・フランスの4拠点でグローバル経営を実践し、防衛関連需要を急速に開拓している
- ・2028年4月期までに4つの軌道上サービスを完了し、2030年までに軌道上サービスを市場のあたりまえにすることを目指して...

証券コード 186A

業績の推移（売上＝棒 / 営業利益＝線）



※営業利益は直近2期のみ開示（有報の様式変更による）

要するに
宇宙空間における軌道上サービス事業を展開する企業

主力事業・セグメント

- ・サービス業（セグメント未開示）

強み・特徴（公開データから）

- ・－（判定に必要な数値が未開示）

※要約はAI生成のため誤りを含む可能性があります

暗記する数字3つ

連結売上高
59億円営業利益率
▲167.9%財務健康度
3点 / 100点

将来性 雨 / 就活偏差値 46.0（当サイト算出の参考指標）

平均年収
1,322万円

サービス業内 8位/524社

平均年齢
44.6歳

サービス業内 75位/527社

平均勤続
3.2年

サービス業内 448位/527社

※平均年収は提出会社単体・有価証券報告書ベース。順位は同33業種内の掲載企業での比較。

ここから下は自分で書く（面接で話すこと）

志望動機の核

上の数字・事業と接続して書く

自分の経験との接点

逆質問メモ

※1つはデータ起点で（例：勤続年数が長い要因は…）

直近ニュース十一言

参考: 株式会社アストロスケールホールディングス 代表取締役社長兼C

